

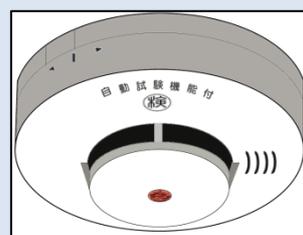
## 1 住警器の種類

住警器には、煙を感知する方式（煙式）のものと熱を感知する方式（熱式）のものがあります。

### 煙式

火災の発生により周囲の空気が一定の濃度以上の煙を含むに至ったときに音響又は音声により警報を発します。作動原理等の違いにより次の2つに分類されます。

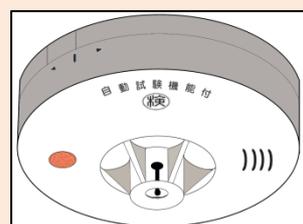
- 光電式住宅用火災警報器
- イオン化式住宅用火災警報器



### 熱式

火災の発生により周囲の温度が一定の温度以上になったときに音響又は音声により警報を発します。

- 定温式住宅用火災警報器



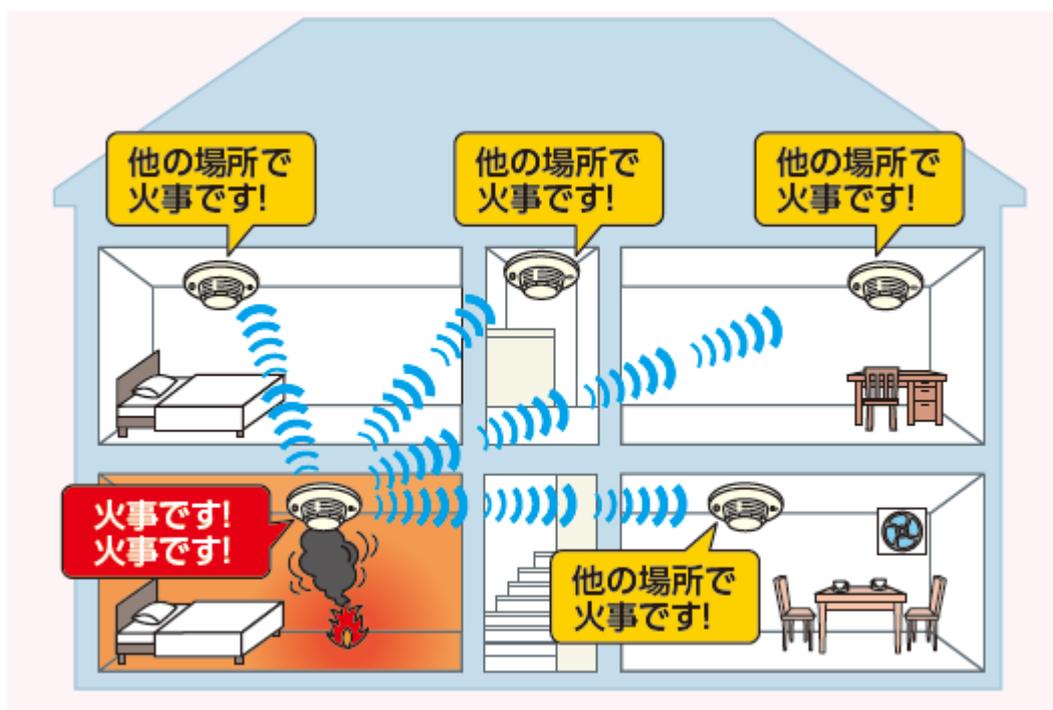
一般的に、煙式の方が早く火災を感知することなどから、寝室・居室や階段では原則として煙式を設置することと定められており、台所など火災以外の煙等により警報を発するおそれのある場所では熱式でも良いこととされているようです。

条例等により設置基準が異なる場合がありますので、どちらを設置するか判断に迷う場合は、お住まいの地域の消防機関などにご確認いただくことをお勧めします。

## 2 連動型の住警器の紹介

住警器を新たに設置又は交換する際は、火災の早期発見に有効な「連動型住宅用火災警報器」もご検討ください。

### 連動型住宅用火災警報器のイメージ



連動型住宅用火災警報器は、警報器の一つが火災を感知すると、有線又は無線により、連動設定を行っている他のすべての警報器に火災信号を送ります。火災信号を受けた警報器は他の場所で火災が発生した旨の警報を発しますので、火災の早期発見に効果的です。

※ 連動型住宅用火災警報器は、取り付ける前に連動させる登録作業が必要ですので、必ず取扱説明書をご確認ください。

#### 【連動型住宅用火災警報器のメリット】

- 無人の部屋で出火した場合でも、他の場所でも警報音を発するため、火災の早期発見に効果的です。
- お年寄りや身体の不自由な方、子供たちの部屋で起きた火災に、他の部屋にいるご家族がいち早く気づくことができます。
- 設置された場所すべてで警報音が鳴るため、ご近所の方や通行人等が火災に気づく機会が増え、消防署への早期通報につながります。

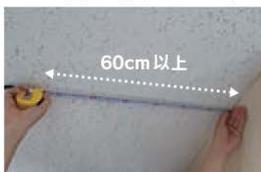
### 3 住警器の取り付け方

#### 住宅用火災警報器の取り付け方

##### 天井取り付けタイプ



**1** 壁または、はりから60cm以上離れた天井の取り付け位置に目印をつける。



**2** 取付ベースを天井の取り付け位置に付属のビスで留める。



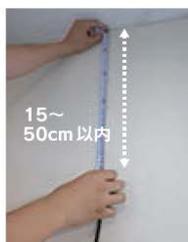
**3** 本体が取付ベースにしっかりとハマるように回して取り付ける。



##### 壁取り付けタイプ



**1** 天井から15～50cm以内に警報器の中心がくるように取り付ける。



**2** 取付位置にドライバーを使って付属のネジで留めつける。

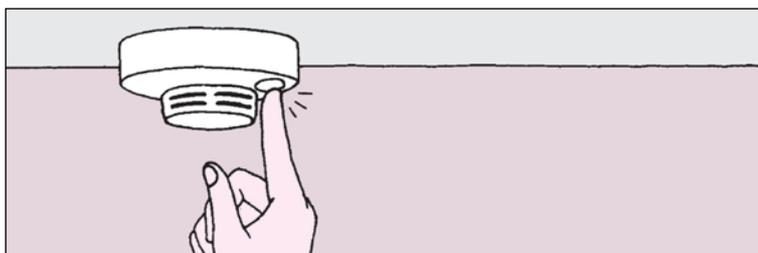


※ 住宅用火災警報器は、換気口等の空気吹出し口から1.5メートル以上離れた位置に取り付けましょう。

## 4 住警器の点検・お手入れ方法（維持管理）

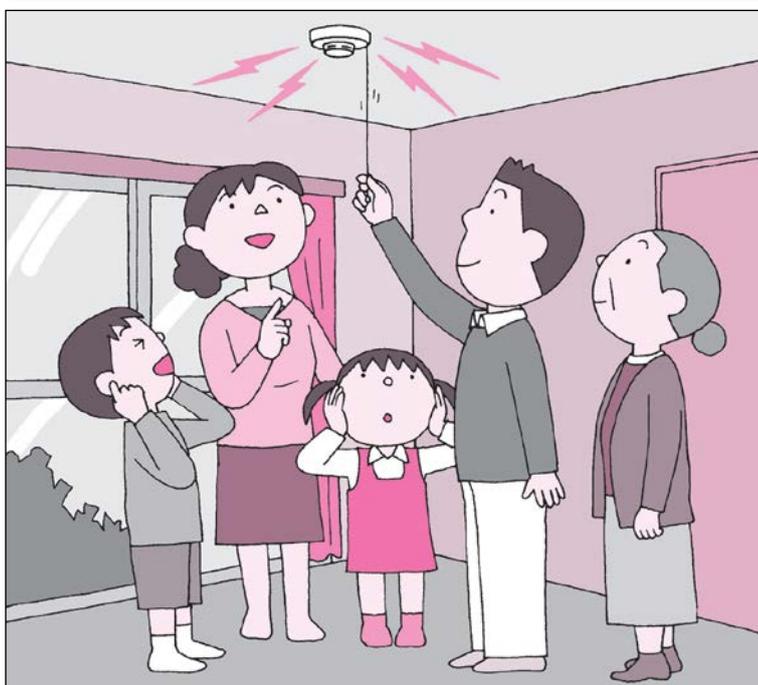
### ○ 点検方法

火災のときにきちんと作動するよう、定期的に点検を行いましょう。



「ボタンを押す」

又は

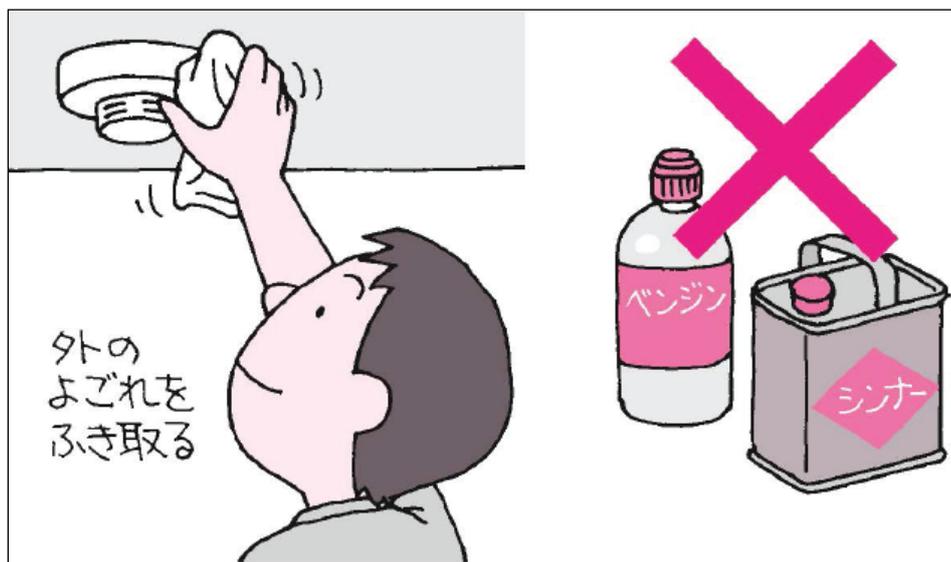


「引きひもを引く」

- ・ 住警器の「ボタンを押す」又は「引きひもをひく」ことで、警報音がきちんと鳴るかどうか、確認しておきましょう。
- ・ 作動点検時に警報音が鳴らないときは、電池切れや故障していることが考えられます。
- ・ 点検は、定期的に確認する時期を決めておくとよいでしょう。
- ・ 点検の際は、実際の警報音がどのようなものであるかを家族で確認しましょう。
- ・ 「電池を交換した後」、「お手入れを行った後」、「長期間留守にして戻った後」などにも、きちんと作動するかチェックしておくとう安心です。
- ・ 天井などに設置されている住警器の点検が高い所での作業になる場合は、安定した足場を確保するなど、転倒や落下に十分気を付けて行うようにしましょう。

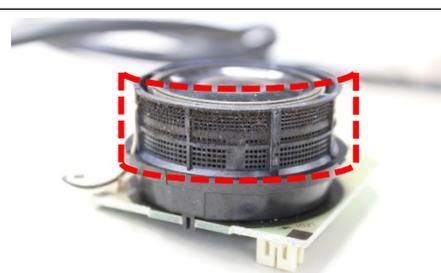
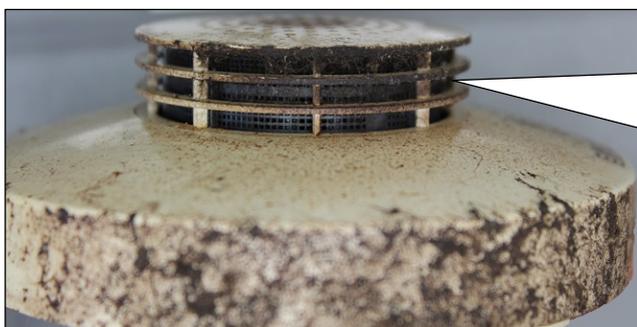
## ○ お手入れ

ホコリなどにより住警器が誤作動を起こしたり、火災を感知しにくくなったりすることを防ぐためには、日頃からの定期的なお手入れが大切です。



お手入れをするときには、次のようなことに注意しましょう。

- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤を使用して拭くことは、絶対にしないでください。
- 水洗いはしないでください。
- 機器を分解することで故障の原因となることがあります。お手入れする場合でも分解はしないようにしましょう。
- 天井などに設置されている住警器のお手入れは、高い所での作業になりますので、安定した足場を確保するなど、転倒や落下に十分気を付けて行いましょう。



写真：維持管理状態の良くない住警器の一例

## 5 住警器の交換時期

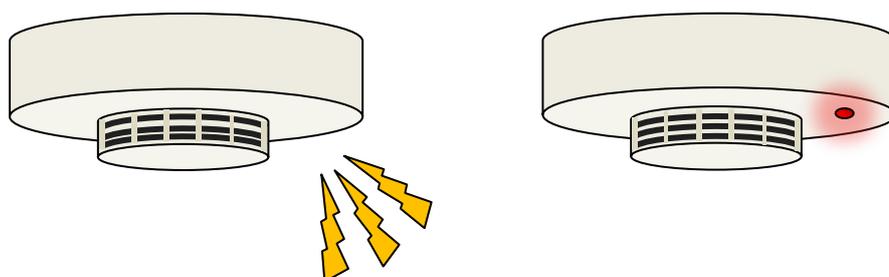
### 住警器の交換時期の確認方法

住警器は、住警器の機種や使用条件及び劣化状況等により交換時期が異なります。

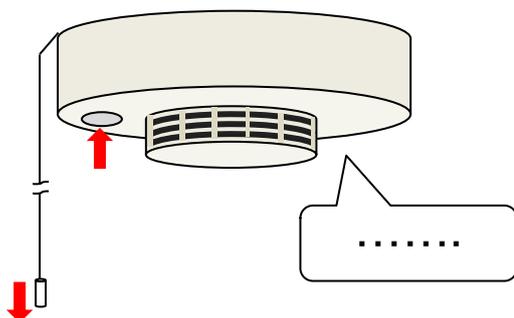
住警器には、交換時期の目安となるよう設置年月日を記入するシールを貼っているものや、電源に電池を使用している機器には電池切れの警報が、また、機種により機器の故障を警報で知らせる自動試験機能を備えた機器もございます。これらの警報が発せられた場合は、電池の交換又は住警器本体の交換を実施して下さい。

詳しくは住警器の取扱説明書で確認しておきましょう。

※ 火災のときにきちんと作動するよう、定期的に点検を行いましょう。



多くの機種は、音響やランプ表示により電池切れや故障をお知らせします。



「ボタンを押す」又は「引きひもをひく」などの点検で作動しない場合は、電池切れや機器の故障の可能性がありますので、交換をおすすめします。

## 6 住警器の廃棄方法

住警器を廃棄する場合には、お住まいの市区町村のルールに従って適正に廃棄してください。

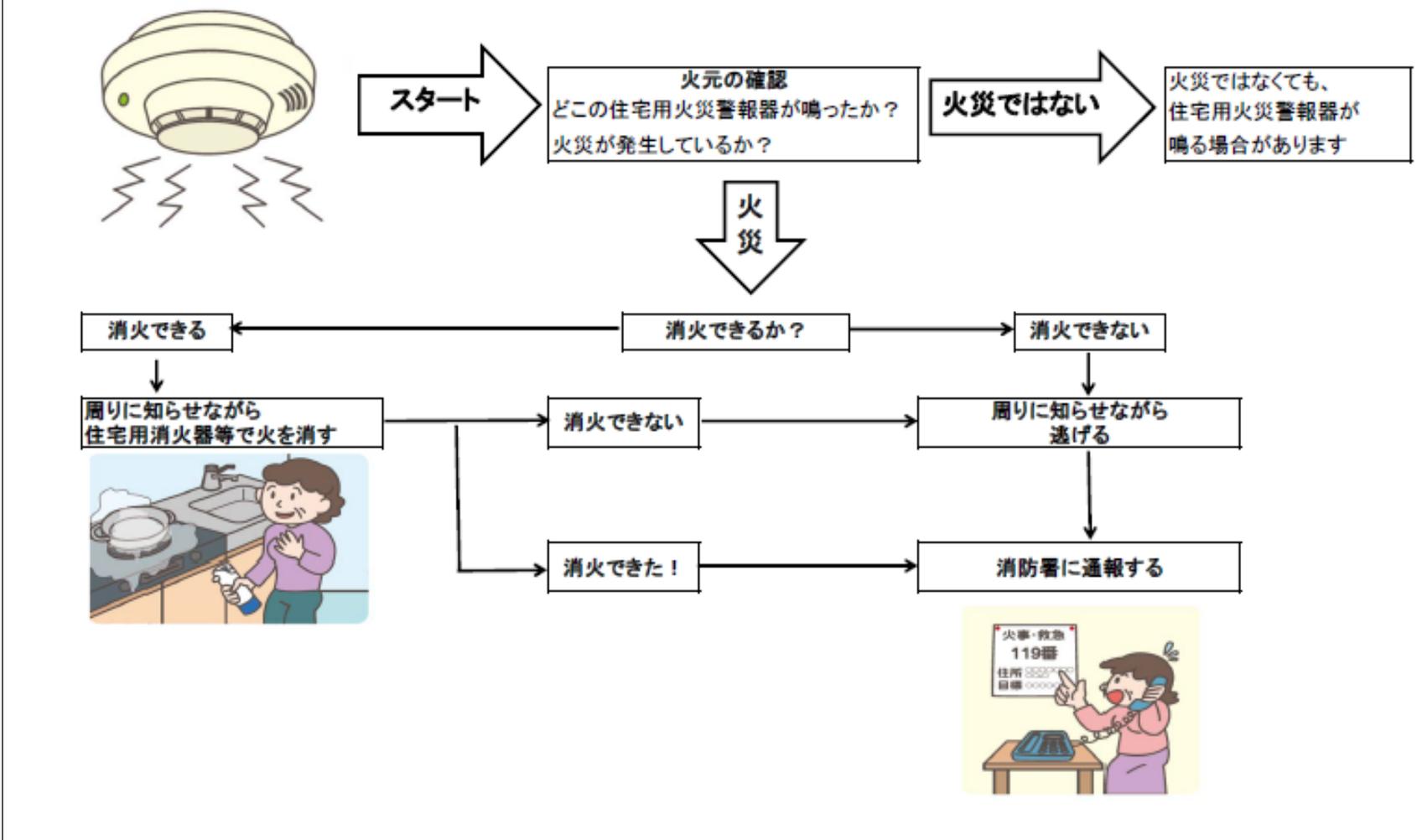


- ・ 廃棄の際は、住警器本体から電池を取りはずしてください。
- ・ お住まいの各市区町村で定める廃棄方法を確認しましょう。

## 8 住警器の火災警報が鳴ったときの対処方法

住宅用火災警報器が鳴ったら…

まずは、落ち着いて火災かどうかを確認！



## 9 住警器の火災警報が火災以外で鳴ったときの対処方法

台所やリビングでは、調理による温度上昇や湯気等の影響で警報音が鳴ることがあります。

### ○ 台所での対処方法

調理により住警器の周囲の温度が上昇していないか、調理による湯気や煙が住警器に直接かかっていないかを確認し、換気扇を回す、窓やドアを開けるなどの方法により換気を行ってください。



## ○ リビングでの対処方法

リビングでの鍋料理や焼き肉など、テーブル上で調理をする際は、調理による温度上昇や、湯気や煙が室内の住警器に直接かかっていないかを確認し、窓やドアを開けるなどの方法により換気を行ってください。



## ○ 室内でおこりうる誤作動

住警器の感知部分にホコリやクモの巣、虫などがつくことで、警報音が鳴る場合がありますので、日頃から定期的にお手入れをしましょう。

